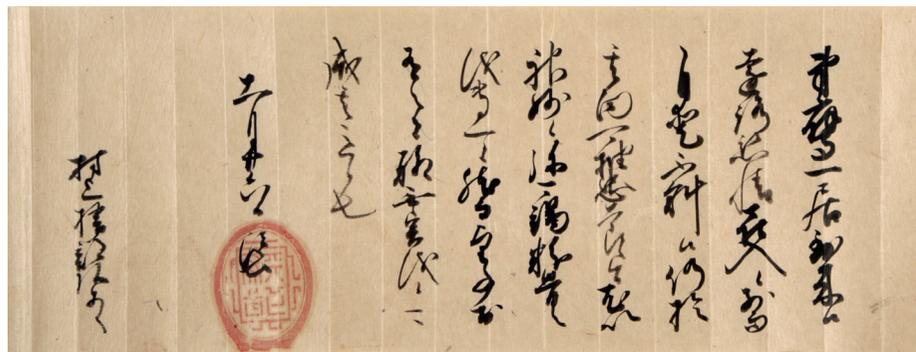
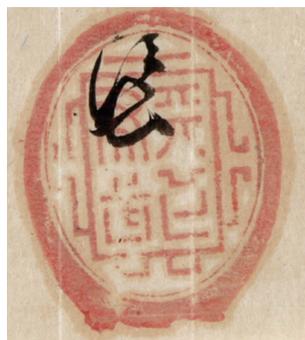


信長の統一事業



* 村上家文書5「織田信長朱印状」



解説

織田信長（1534～82）は、尾張守護代であった織田家の分家筋に生まれました。尾張を統一後、今川義元を桶狭間の戦いで破って武名をあげ、美濃の斎藤氏を滅ぼして岐阜に本拠を移します。ついで、足利義昭を擁して京都にのぼり、義昭を将軍職につけましたが、のちに対立、ついに1573（天正元）年に義昭を追放して室町幕府を滅ぼしました。

その後、三河長篠の戦いで武田氏を破り、翌年5層の天守閣をもつ安土城を築きました。さらに、中国地方に進出して毛利氏と対立するかたわら、石山本願寺をくだして畿内を掌握しました。1582（天正10）年に武田氏を滅ぼして甲信地域を制圧しますが、家臣の明智光秀に叛かれて京都本能寺で自刃します。

写真は、著名な「天下布武」（天下を武力で統一、あるいは武家政権を樹立するという意味）の印章を用いた信長の朱印状です。信長がこの印章を用い始めたのは、1567（永禄10）年に大国である美濃を占領することにより、京都への道が開け、天下統一が現実のものとして視野に入ってからのことでした。この資料は、信長が、瀬戸内海最大の海上勢力である能島村上氏に対して「弟鷹」（雌の鷹）を贈られた礼を述べ、望みは何でも叶えてやる旨を伝えた手紙です。

* 信長の文書は、宍戸家文書2にも含まれています。いずれも『山口県史』史料編中世3で活字になっています。